

2024年3月11日〈計3枚〉

報道機関 各位

京都橘大学広報課

たちばな教養学校 Ukon 第3期生（2024年度前期受講生）
多彩な講師陣をお迎えし、3月11日（月）より申し込み受付開始！
「読む——新たな『ことば』を探す旅」をテーマに全8回開講します。

京都橘大学（京都市山科区、学長：日比野英子）では、「生きる」ことを深く味わい、人生を豊かにするための学びの場をめざして、公開講座「たちばな教養学校 Ukon（ウコン）」を2023年5月より開講しています。

第3期（2024年度前期）の講師8名が決定し、3月11日（月）より申し込み受付を開始します。多彩な講師陣をお招きし、「読む——新たな『ことば』を探す旅」をテーマにお話しいたします。

「読む」という行為は「文字を読むこと」だけではありません。私たちは、空気を読む、人のこころを読む、アートを読む、時代を読む、自然を読む、歴史を読む……など、日頃多様なものに接する中で、その刺激を「ことば」にしながらかみ解こうとしています。その「ことば」の捉え方が新たな気づきや表現となれば、それは幸福な体験です。8人の講師とともに、そのヒントを探ります。

Ukonの学頭・河野通和氏（編集者・読書案内人・本学客員教授）は、各授業において、学びのナビゲータを務めます。どなたでもご参加いただける公開講座です。



たちばな教養学校 Ukon

第3期
(全8回)
申し込み
受付中

 穂村弘	 稲葉俊郎	 川内有緒	 山極壽一
 梶川由紀	 鵜飼秀徳	 小川公代	 通崎睦美

開催日時：2024年5月25日（土）～2024年9月7日（土）の期間における全8回

開催場所：QUESTION 7階「クリエイティブcommons」京都市中京区河原町通御池下下丸屋町390-2

定員：各回100名（先着順）、対面

受講料：全8回一括お申し込み 15,000円、各回お申し込み 1回 2,500円

お申し込み方法：たちばな教養学校 Ukon 特設サイトよりお申し込みください。

講師：別紙をご参照ください。

Ukon 特設サイト



●取材・内容についてのお問い合わせ先

京都橘大学広報課 担当：村上・石原 TEL.075-574-4112

1. 全体テーマ：読む——新たな『ことば』を探す旅

2. 第3期授業概要について（開催日時、テーマ、講師、プロフィール）

	開講日時	テーマ	講師
1	2024年5月25日(土) 14:00～15:30	日常のセンス・オブ・ワンダー	穂村 弘
2	2024年6月7日(金) 19:00～20:30	いのちを診る、いのちをつむぐ	稲葉 俊郎
3	2024年6月21日(金) 19:00～20:30	「食」の記憶の深みから ——福島・国道6号線をゆく	川内 有緒
4	2024年7月5日(金) 19:00～20:30	我々はどこから来て、どこへ行くのか ——「共感」の起源をひもとく	山極 壽一
5	2024年7月19日(金) 19:00～20:30	写真を読む ——見えない世界に目をひらく	梶川 由紀
6	2024年8月9日(金) 19:00～20:30	「路傍の石」を読む ——物いわぬ「歴史の証言者」	鵜飼 秀徳
7	2024年8月23日(金) 19:00～20:30	ケアで読み解く名作文学	小川 公代
8	2024年9月7日(土) 14:00～15:30	楽曲を読む ——演奏家は問いかける	通崎 睦美

【プロフィール】

① 穂村 弘（ほむら・ひろし）：歌人

1962年北海道生まれ。1990年に歌集『シンジケート』でデビュー。歌論集『短歌の友人』で伊藤整文学賞、『鳥肌が』で講談社エッセイ賞、歌集『水中翼船炎上中』で若山牧水賞を受賞。歌集『ラインマーカーズ』、近刊に『短歌のガチャポン』、『彗星交叉点』『蛸足ノート』など。

② 稲葉 俊郎（いなば・としろう）：医師/医学博士

1979年熊本県生まれ。医師。東大病院循環器内科助教を経て、2020年より軽井沢へ転居。芸術、音楽、民俗学など異分野への関心も深く、「全体性」を取り戻す新たな医療のあり方を模索する。2020年より山形ビエンナーレ芸術監督。著書に『いのちを呼びさますもの』『ことばのくすり』他。

③ 川内 有緒（かわうち・ありお）：ノンフィクション作家

1972年東京都生まれ。仏の国連機関などに勤務後、フリーのライターとして評伝、旅行記、エッセイなどを執筆。著書に『バウルを探して 地球の片隅に伝わる秘密の歌』、『空をゆく巨人』、『目の見えない白鳥さんとアートを見にいく』、『自由の丘に、小屋をつくる』など。

④ 山極 壽一（やまぎわ・じゅいち）：総合地球環境学研究所 所長

1952年東京都生まれ。人類学・霊長類学者。屋久島で野生ニホンザル、アフリカ各地で野生ゴリラの社会生態学的研究に従事。2020年まで京都大学総長。著書に『共感革命-社交する人類の進化と未来』『森の声、ゴリラの目-人類の本質を未来につなぐ』など多数。

⑤ 梶川 由紀（かじかわ・ゆき）：何必館/京都現代美術館キュレーター

京都市生まれ。パリ、ヨーロッパ写真館(MEP)の美術館設立にキュレーターとして携わる。帰国後、「何必館・京都現代美術館」に写真部門を立ち上げ、アンリ・カルティエ＝ブレッソンやサラ・ムーン、荒木経惟など国内外の展覧会企画や写真集の編集、執筆を行う。

⑥ 鶴飼 秀徳（うかい・ひでのり）：浄土宗正覚寺住職/ジャーナリスト

1974年京都・嵯峨の正覚寺に生まれる(現在住職)。新聞記者・編集者を経て、独立。「宗教と社会」をテーマに取材、執筆、講演を続ける一方、「寺院再生を通じた地方創生」に携わる。著書に『寺院消滅』、『仏教抹殺』など多数。大正大学招聘教授、東京農業大学・佛教大学非常勤講師。

⑦ 小川 公代（おがわ・きみよ）：英文学者/上智大学外国語学部教授

1972年和歌山県生まれ。上智大学外国語学部教授。専門は、ロマン主義文学、および医学史。ケアの観点から多様な文学作品を読み直す試みを続けている。著書に『ケアの倫理とエンパワメント』、『ケアする惑星』、共編著に『文学とアダプテーション——ヨーロッパの文化的変容』など。

⑧ 通崎 睦美（つうぎき・むつみ）：木琴奏者

1967年京都市生まれ。京都市立芸術大学大学院音楽研究科修了。往年の名木琴奏者・平岡養一氏の愛器を譲り受け、演奏・執筆活動を通して木琴の復権に注力する。アンティーク着物の蒐集でも知られる。著書に『木琴デイズ 平岡養一「天衣無縫の音楽人生」』『天使突抜おぼえ帖』など。

3. 学頭・河野通和（こうの・みちかず） プロフィール

1953年、岡山市生まれ。東京大学文学部ロシア語ロシア文学科卒業。1978年、中央公論社(現中央公論新社)入社。おもに雑誌編集にたずさわり、「婦人公論」「中央公論」編集長を歴任。新潮社にて季刊誌「考える人」編集長を務めた後、株式会社ほぼ日入社。「ほぼ日の学校(のちに学校)」初代学校長を務める。2022年4月より、京都橘大学客員教授。著書に『言葉はこうして生き残った』(ミシマ社)、『「考える人」は本を読む』(角川新書)がある。読書案内人・編集者として活動中。

4. お問い合わせ先

たちばな教養学校 Ukon 事務局(京都橘大学 生涯教育・通信教育課)

TEL:075-574-4335

MAIL:ukon@tachibana-u.ac.jp

以上